

新たな産業として 期待を集める プリンテッド エレクトロニクス

高分子の機能発現を通じて
「未来のニーズ」に
貢献できる人を育てます



米沢支部の講演会と交流も煮会が、去る10月1日（土）午後4時30分から、ホテルモントビュー米沢で開催されました。講演会は、山形大学有機エレクトロニクス研究センター長の時任静雄卓越研究教授を迎え「フレキシブル・プリンテッド有機エレクトロニクスの基盤研究と事業化展開」と題して行われました。

時任教授は、九州大学大学院博士課程修了、同大学院助手、カリフォルニア大学研究員、(株)豊田中央研究所、日本放送協会（NHK）を経て、平成22年に山形大学に招聘されました。研究対象は、有機半導体材料を用いた電子デバイスの開発や、印刷プロセスを使った電子デバイスの製造技術開発、およびそれらに関連した機能性材料の研究開発などです。研究の一例として、プラスチックの薄いフィルムにトランジスタを印刷する「プリンテッドエレクトロニクス」があります。軽くてしなやかな素材に電子回路を印刷することで、人体に貼ったり、装着しても違和感のないセンサーが実現しました。

このセンサーで、身体状況をモニタリングすることで疲れや緊張度合いなどの数値として把握できるようになります。低コストで、大量に「電子デバイス」が製作できる点も革新的で、ヘルスケア分野などをはじめ一つの産業に発展することが期待されます。

研究にあたって常に意識しているのは、「未来のニーズ」に貢献するために「現在何ができるか」というバックキャストिंगの考え方です。学生にも、「10年後20年後にどうなりたいか」を意識して目の前の課題に取り組んでほしいと伝えているそうです。

米沢有為会 米沢支部だより

第 34 号

平成29年 2月15日

発行者

(公社)米沢有為会米沢支部

支部長 中川 勝

米沢市金池5-2-25

☎ 0238-22-5111



私の学生時代と寮生活

米沢市議会議員

海老名

悟

私が大学に入学したのは、昭和56年4月でしたが、入学と同時に東京興譲館寮にも入寮しました。

しかし、私の東京での学生生活は、高校3年間の「付け」を支払うため、予備校に1年間通うことから始まりました。大塚にある予備校に歩いて30分ほどかかる北池袋に下宿をしましたが、当時、風呂無し共同トイレの四畳半一間に朝・夕の二食付きで、家賃が確か3万5千円だったと記憶しています。その下宿屋には、私と同じ予備校生と大学生3人の計5人が入居し、共同トイレや洗面所の掃除を交代で行い、朝夕は一緒に食事をするという共同生活でした。そんな予備校生活をしていきたいか、大学合格とともに興譲館寮に入寮したのは必然だったのかもしれない。また、寮には高校時代の同級生が1年先輩になっていたか、一浪した同級生も同時に入寮したりして、顔馴染みが多かったことも心強く感じたものでした。

昭和56年当時の寮費がいくらだったか？私の記憶が定かでなかったもので、同期の友人二人に聞いてみたのですが、二人の金額に1万円以上の開きがあり、4年後輩のS君に確認してようやく2万3千円だったと判明しました。あれから三十有余年、平成29年の寮費は4万8千円で個室・エアコン付きです。私が寮にいた頃は、3年生までは相部屋でエアコンは当然無しでしたから、隔世の感があります。しかし、現役の寮生が米沢有為会々誌に載せた寮だよりには、先輩と後輩の関係を学ぶことが寮生活の利点だと書いてあり、これは私が寮生活をして感じたことと同じです。

つまり、何十年も前の学生と現代の学生も時代は変わっても、寮生活を通じて得る貴重な体験は同様だということではないでしょうか。学生時代という多感な時期に寮生活することにより、社会人として必要な上下関係の把握や他人との協調性、コミュニケーション力をつけることができれば、素晴らしいことです。

このような経験ができる寮を通じて学生支援をして頂いている米沢有為会が、今後益々発展されることをお祈り申し上げます。

まちの話題

新文化複合施設

「ナセB A」開館

〈市立図書館と市民ギャラリー〉

米沢市の新文化複合施設「ナセB A」が平成28年7月1日、中央1丁目に開館しました。中心市街地活性化の拠点として、市が25年9月から総事業費約28億円をかけて建設していたもので、1階がよねざわ市民ギャラリー、2～5階が市立米沢図書館の重厚で開放的な鉄筋コンクリート造の5階建てが完成し、同日記念式典が行われました。中川勝市長は「教養文化のまちを目指して生涯学習の場にしたい」と挨拶、「文化が薫るまち」の実現が期待されています。

よねざわ市民ギャラリー

1階の市民ギャラリーは、「芸術文化活動を高め、さまざまな芸術文化に親し



外観

市民ギャラリー

み、活気あふれる市民の芸術文化活動の拠点」を目指しています。可動式の壁で仕切られる9つの展示室の他、オープンギャラリーや2つの体験学習室があり、美術作品等の展示や鑑賞に利用されています。建物の南側と西側には「こまや」と呼ばれる庇の長い軒下部分があり、展示場としても活用されます。そしてブックカフェでは、一休みしてコーヒーを飲みながら談笑することもできます。

市立米沢図書館

新図書館は「歴史に学び、今を生き、未来を創る市民の図書館」を目指しています。2階への階段を上ると、途中の踊り場に郷土の先人たちを顕彰する展示ケースがあります。1回目は米沢市の名誉市民第1号で建築家の伊東忠太博士の業績が展示されていました。

受付前で見上げると5階まで13mの吹き抜けで、写真に見る通りまさに壮観の一語に尽きます。2階には書架や閲覧室などがあり、3～5階は壁面書庫や貴重書庫となっていて、一般市民は入室でき



図書館内全景

閲覧室

ません。

閲覧席は約250。開架・閲覧室やレファレンス（調査相談）カウンターの他に様々な部屋があります。内側に書架が並び、その周りの窓際に有機EL照明の読書灯を付けた閲覧席や、子ども図書コーナー、読み聞かせなどを行う「おはなしのへや」（この入口左側の壁には、記念式典にも出席された米沢市出身の漫画家ますむらひろし氏の色鮮やかな絵がステンドグラスになって飾られています）、郷土資料閲覧室、情報検索・視聴コーナーなどがあります。

蔵書数は30万冊で、開架15万冊、閉架15万冊と、利用できる本が旧図書館の約4倍に増えました。年間の図書購入予算は1千400万円で約7千冊購入の予定だそうです。置賜在住の人なら誰でも利用者カードを申込み交付され、貸出サービスを受けられます。

開館6カ月後の印象について村野隆男館長は、「予想を大幅に上回る利用者数は大変嬉しく、さらに多くの皆様のご来館をお待ちしています」と大きな期待を



おはなしのへや

AVコーナー

寄せていました。年間28万人の利用を見込んでいますが、1月末現在の利用者数は24万5278人です。

◆市民ギャラリー開館時間

展示室・学習室 9～20時

展示時間 10～18時

展示期間 6日間（火～日）

休館日 年末年始など

◆図書館開館時間

平日 4～9月 10～20時

10～3月 10～19時

土・日・祝日 9～19時

休館日 毎月第4木曜日
年末年始など

新しく会員になられた方々

氏名	会員区分
相澤 哲哉	個人賛助会員
青木 和人	個人賛助会員
伊藤 由美子	個人賛助会員
海野 耕二	個人賛助会員
遠藤 隆	個人賛助会員
大沼 敏美	個人賛助会員
奥山 留美子	個人賛助会員
海和 雅人	個人賛助会員
齋藤 和哉	個人賛助会員
(株)ニューテックシセイ 栗原 晃	法人賛助会員
(株)我妻組 我妻 悦雄	法人賛助会員

リレー随想 ⑪

仙台興譲館寮の思い出

山形大学プロジェクト教員
横井 博

昭和42年4月、仙台興譲館寮（角五郎1丁目）に入寮。それから4年間、学生時代の居場所としてお世話になった。大変感謝申し上げます。当時の記憶がほとんど消え去っていく中で、半世紀もの間消えなかった寮生活とは何だろうか。寄稿の動機でもあるが、「寮生活で印象に残る光景」を拾い集めてみた。

(1) チャイコフスキー交響曲第5番が流れる戸田さんの部屋

大学時代のサークルはオーケストラであった。これだと望んで入ったサークルである。初めての演奏会のメイン曲がチャイコフスキー交響曲第5番である。その曲にすっかり惚れ込むのだが、その曲が、清々しい朝戸田さんの部屋から聞こえてきた。（たぶん）自慢したいほどのオーディオから第1楽章の曲が響いてきた。

(2) 新寮生歓迎コンパで一升瓶もつてワイ歌を演じる鈴木先輩

いわゆる旧館の大部屋と隣の部屋

が新寮生歓迎コンパの会場となる。どの程度の酒が飲めるかがわからないで臨むせいか緊張感があった。身を立って世を興す、という独特の学生文化がこのコンパには潜んでいた。さらに盛り上げるのが芸であり、その最たるものがワイ歌。私は勿論初めて聞く。実に可笑しく滑稽で、一理もあり、切なさもある。そのワイ歌に合わせながら一升瓶をもつて演じる鈴木先輩。誠に楽しそうだった。

(3) 麻雀部屋

学生時代に味わった楽しみは終生のものである。麻雀もその一つである。麻雀のルールは初心者にとって厄介で、手間がかかる。まずは先輩のものを覚えて覚えるしかない。入寮時には麻雀部屋があった。騒音に配慮して、二つの棟の中間に確かあった。一組しかできないから、そう広くはない。覚えるには、そこに踏み込んで教わるしかない。そういう威厳のある部屋でもあった。

印象に残る光景を集めてみた。みなさんはいかがだろうか。

寮は学生を経済的に支援する社会的装置ではあるが、寮生の数ほど様々なドラマが相乗的に生み出されるオモシロイ空間、それが「寮」でもある。だからこそ、仙台興譲館寮生活をやはり後輩に勧めたいのである。

～ 活躍する会員紹介 ～ ⑫

米沢上杉文化振興財団 常務理事・事務局長

菅 野 智 幸 さん



社会の様子がわかる貴重な文書群であるばかりでなく、やり取りされた当時の文書形態を今に伝えるものとして、多くの研究者、歴史家の方から注目を集めているものです。

Q3. 博物館の今年の大きな企画は何ですか。

A3. 4月の上杉まつりに合わせて「特別展戦国時代展」を予定しております。これは江戸東京博物館、京都文化博物館、読売新聞社と共同で主催するもので、応仁の乱から室町幕府滅亡までの動向を武器や肖像画、絵図など数多くの著名な文化財や歴史資料を展示して明らかにしようとするものです。また、秋には「特別展上杉家の名刀と三十五腰展」を予定しております。こちらも埼玉県歴史と民族の博物館、佐野美術館（三島市）と連携し、3館巡回で上杉家伝来の刀剣を紹介しようとするものです。このほか皆様に楽しんでいただけるものを企画しておりますので、ぜひおいでいただきたいと思います。

Q4. 今後の抱負は

A4. 当財団は、貴重な地域資源を活かしながら、地域における歴史・芸術文化の振興を図り、地域住民の文化的教養を高めることによって、心豊かな潤いのある地域社会の創造に寄与することを目的としていることから、今後もこの目的に沿った多彩な事業を展開してまいりたいと思います。

Q1. 米沢上杉文化振興財団のプロフィールをお聞かせください。

A1. 平成元年、上杉家16代当主隆憲氏より、重要文化財「上杉家文書」、重要文化財「紙本金地著色洛中洛外図」（ともに現在は国宝）など4点が米沢市に寄贈されたことを契機として、平成2年に財団法人米沢上杉文化振興財団が設立され、米沢市上杉博物館の管理運営を米沢市から受託することになりました。平成24年4月に公益法人へ移行し、公益財団法人米沢上杉文化振興財団となり現在に至っています。博物館のほか座の文化伝承館、ナセBA（市立米沢図書館及びよねざわ市民ギャラリー）及び米沢市まちなか駐車場の指定管理者の指定を受けています。

Q2. 特に、上杉博物館の目玉は何ですか

A2. やはり二つの国宝です。特に「紙本金地著色洛中洛外図」は人気があって、春秋の原本展示の際は多くの人が全国から来館されます。また、上杉家伝来の「上杉家文書」につきましても、武家

米沢有為会を支援します



精英堂印刷(株)
代表取締役社長

井上 吉昭

弊社は、大正4年の創業から紆余曲折はありましたが、今年2月で満102年を迎えます。本社・工場を一貫して米沢の地に置き、日本酒を中心とした醸造業界関連の仕事を得意として山形県内はもとより、北関東以北を営業エリアとして活動してまいりました。更に21世紀に入って「水なし印刷」という印刷技術を導入すると同時に東京に営業所を置き、関東圏の新規得意先の開拓、関東以西への展開を図り、概ね順調に今日を迎えることができています。「水なし印刷」をコア・テクノロジーとしてパッケージ、ラベル、シールに新たな付加価値を加えてご提案するという活動が、幸いにも多くのクライアントから好評を持って受け入れていただいている結果だと思っています。

さて、私自身は迂闊にも米沢有為会様の活動を殆ど認識しておりませんでした。特に学生時代は大変お世話になっておりました。私は仙台で学生時代を過ごしたのですが、受験の前日から宿泊させていただいた

のが仙台興譲館寮でした。たしか仙台市の角五郎町にあったと思います。が、前米沢市長の安部三十郎君と同室で、受験前日の夜ついつい話してしまし、やや寝不足の感じのまま試験に臨んだことを覚えています。何とか試験を通過して学生となったからも、何度か友達に会いに行つたことも、懐かしく思い出します。

米沢には、上杉鷹山公以来の「国造り」は人造りから」の教えが脈々と受け継がれてきていると思います。昨今の少子高齢化、若年人口域外流出が顕著な状況の中で、高校を卒業して都会に行く若人の心と暮らしのよりどころとして「興譲館寮」を持ち、更にそこから郷土の先輩達と繋がることによって古里を意識し続けることは大変重要なことだと思っています。「人造り」の大切な取り組みとして、これからも米沢有為会様の活動を可能な限り支援させていただきます。と思っています。



編集後記

★今年度特筆すべき米沢市の事業である新文化複合施設「ナセBA」は、長く市民に親しまれる文化の拠点として期待されています。

★「興譲館寄宿舎 戦後70年の歩み」には、明治42年の東京興譲館開館に始まり2千名以上が恩恵を受けた寄宿舎の歴史と共に、昭和20年から東

京、仙台、札幌、山形で各時代に寮生活を送った学生代表の詳細な記録が収められています。先輩・後輩との交流や諸行事を通して、悩みなながらも楽しく過ごした寮生活に意義を見出し、それを長い人生の一助にして、感謝を胸に努力していこうと決意する姿が刻まれています。(手)

米沢有為会育英事業の 寮生募集

これだけ便利・これだけ安い・これだけ快適

- ◎寮は2食付(朝・夕)で約4.8万円(東京)、約4.2万円(仙台)
- アパートで生活する場合
東京(郊外)で5.5万～6.5万円。他に食費、光熱費など含め仕送り額約10万円程。
仙台で4万～5万円。他に食費、光熱費など含め仕送り約8～9万円程。
- ◎東京興譲館は新宿駅から約40分。仙台興譲館は市街地まで約3km。
- ◎居室は(東京)個室。(仙台)個室。
- ◎企業の採用担当者は寮生活経験者を評価しており、好印象を抱いている。(協調性、コミュニケーション能力が身に付いている。)

	「東京興譲館」寮	「仙台興譲館」寮
資 格	大学、短大、専門学校及び大学院に進学・入学予定者(男子のみ)	大学、短大、専門学校及び大学院に進学・入学予定者(男子のみ)
寮費(月額)	4～6月、10～11月 48,000円 7～9月、12～3月 49,500円 個室、朝夕2食付	4～11月 42,000円前後 12～3月 44,000円前後 個室、朝夕2食付
募 集 人 員	7名程度(定員24名)	4名程度(定員15名)
面接選考日	3月11日、3月24日	3月11日、3月26日
面 接 場 所	米沢市内、東京興譲館	米沢市内、仙台興譲館

詳しくはホームページ

米沢有為会

検索